

(様式第12号)

活 動 計 画 書

平成30年〇月〇日策定

〇〇の森保全の会

森林・山村多面的機能発揮対策交付金に係る活動計画書

1. 組織名 活動組織の名称を記載

〇〇の森保全の会

2. 所在地 活動組織の所在地を記載

北海道〇〇市〇〇町△△1丁目××番地

3. 地区の概要、取組の背景等 対象地区の概要、取組に至る背景等を記載

〇〇市〇〇地区は・・・により、集落で先祖代々守り続けている〇〇の森が荒廃してきた。このため、地域住民（〇人）とNPO法人〇が「〇〇の森保全の会」を設立し、〇〇の森を整備し、定期的に炭焼き体験や〇〇の森生き物観察会を開催し地域住民と都市住民の絆の森とし、地域の活性化を進める。

4. 取組概要

〇〇地区にある〇を中心とした広葉樹林について〇〇の森保全の会メンバーによる雑草木の刈払い、集積、処理場までの運搬を実施。整備後に〇を植林、遊歩道の整備（一部急峻フィールドについては作業委託を実施。0.5ha）。また、一部のフィールドにおける枯損木の除去を実施し、チップーによる処理後遊歩道へ敷設する。また、整備後に、対象林地内に炭焼き小屋を整備し、フィールド内の0.5haから炭及び薪ストーブ用の原木の間伐を行い、地域内外の住民への炭焼き体験や〇〇の森生き物観察会を定期的実施。

5. 構成員の概要 活動組織がどのような構成員からなっているかを記載

※構成員の居住地（どのような地域から参加しているか）、職種、経歴、所属団体等、構成員の多様性がわかるように記載すること。

〇〇の森保全の会は、主に〇〇市〇〇地区の住民が集まった組織であり、構成員40名のうち35名が同地区の住民である。その他の構成員は〇〇市内他地区が4名、道外1名となっている。本活動組織は地域の住民を核に作られた組織であるため職種は林業、自営業、事務等様々である。所属団体については、森林関係のNPOに所属している者が10名、環境保全に関する市民団体8名などからなる。（別紙参加同意書のとおり）

6. 地元の自治体、自治会、集落等のニーズに対応するなど地域の活性化への寄与

地元自治会で〇〇の森の荒廃が問題視されており、自治会の中から有志で〇〇の森保全の会を立ち上げて森林整備を行う。〇〇の森は市有林であり、財政状況が厳しい中で、市でも十分な管理が行えていない場所である。このことから、市の方からも協定を結び、地域住民で管理をして貰えるのであればありがたいとの声をいただいている。

7. 年度別スケジュール 3か年の取組について、取組概要を記載。H28、H29に採択された組織はその年度から記載すること。

取組メニュー	平成30年度		平成31年度		平成32年度	
1. 活動推進費	林況調査及び活動についての詳細な打合せ		/		/	
2. 実践活動						
A-1 地域環境保全タイプ (里山林保全)	雑草木の刈払い、集積、処理	1.2ha	雑草木の刈払い等保全管理	2.2ha	雑草木の刈払い等保全管理	2.2ha
A-2 森林資源利用タイプ	炭焼き・薪原木の伐採（教育研修と組み合わせ）	2.3ha	炭焼き・薪原木の伐採（教育研修と組み合わせ）	2.3ha	炭焼き・薪原木の伐採（教育研修と組み合わせ）	2.3ha
C 森林機能強化タイプ	作業道の作設・補修	100m	作業道の作設・補修	20m		0m

D 教育・研修活動タイプ	植生調査、 森林教室、 きのこの日	6回	環境教育及び 炭焼き・薪原 木の伐採体験	5回	環境教育及び 炭焼き・薪原 木の伐採体験	5回
2-1 間伐等（除伐・枝打ちを含む）実施面積 人工林だけでなく天然林についても入れること		3.5ha		4.0ha		4.0ha
2-2 活動を始める時点で長期にわたり手入れをされていないかと思える森林を整備する面積 施業履歴等を確認する必要はなく、荒廃している等の場所であれば面積を記入すること。このとき、面積はおおよその面積で記載し測量等を行う必要はない。		1.2ha		1.0ha		0.0ha
3. 資機材・施設の整備						
(1/2以内)	刈払機 1台 チェーンソー 1		チェーンソー 2台			
(1/3以内)	薪割り機 1台		炭焼き小屋整備、 薪ストーブ 1台設置			

※1 延長には森林調査・見回りを除く。

※2 2のCの森林機能強化タイプの森林面積については、スケジュールの期間内に地域環境保全タイプ又は森林資源利用タイプにより森林整備を実施する面積を記載する。

※3 2-2については、2年目以降はその前年度までの活動により該当する森林の整備を実施している場合はその森林の面積を除外し、その年度に新たに該当する森林の整備を実施する面積を記載する。

※4 資機材・施設の整備の1/3以内は、林内作業車、薪割機、薪ストーブ、炭焼き小屋が対象

8. 活動の目標と結果を測定するためモニタリング方法（地域環境保全タイプ及び森林資源利用タイプについて記載） **複数の目標がある場合は、適宜行を挿入して記載。**

タイプ名	活動の目標	数値目標	モニタリング方法
地域環境保全タイプ	混み合った林をすっきりして、健全な状態にしたい。	相対幹距比〇ポイントアップ	相対幹距比
地域環境保全タイプ	森林内を整備して、森林散策や森林学習を安全に実施できるようにしたい。	森林散策や森林学習に適したエリアを〇〇ha確保する。	森林散策や森林学習に適したエリアの確保面積
森林資源利用タイプ	木材を持続的に生産し、利用することで、里山の景観を維持したい。	薪の年間利用量 〇〇m ³	薪の搬出利用量を計測

（注）目標の設定及びモニタリング方法の記載については、別に定めるガイドランを参考とすること。

9. 年度別に実施する安全講習等の名称及び内容

年度	講習の名称	講習の内容
30 年度	応急手当	野外での応急処置、ハチ刺され対策、熱中症対策
	伐木安全講習	チェーンソーの安全操作、間伐技術
31 年度	刈払機安全講習	刈払機の安全操作
32 年度	林業機械安全講習会	刈払機、チェーンソーの安全講習

10. 安全のために装備する物品及び障害保険の名称

安全装備：ヘルメット〇〇個、救急用具、イベント用子供用ヘルメット〇〇個

障害保険：森林ボランティア保険（NPO森づくりフォーラム）

11. 4年目以降の活動（森林管理）計画

4年目以降の取組の方向性について記載

4年目以降も〇〇の森の保全管理を継続して実施。また、近隣の都市住民からも幅広く維持活動に協力していただける活動も継続し、地域の里山を維持・発展させる予定。

1 2. 計画図（協定の対象としている区域の図面）

取組の実施箇所の森林計画図を添付すること。森林計画図がない場合は、対象森林の面積が分かる縮尺5,000分の1以上の図面を添付すること。添付した図面に、計画期間中の各タイプの活動内容及び森林経営計画及び森林施業計画の策定の有無を図示すること。また、森林機能強化タイプにおいては、改修等を実施する路網や鳥獣被害防止柵を図示すること。

取組の実施箇所の森林簿及び森林計画図を添付（縮尺5,000分の1以上の図面も用いて、タイプ別活動エリアが明記されているもの）、森林簿、森林計画図がない場合は、対象区域がわかる図面を使う

1 3. その他

(1) 写真

取組の実施箇所に長期わたり手入れをしていなかったと考えられる里山林がある場合はその写真を添付すること。

写真別紙（①～②）

(2) 収入

会費、林産物収入など森林・山村多面的機能発揮対策交付金以外の収入について記載すること。

項目（費目）	内 容	年間収入見込額（円）
会費	1人年間〇〇円 × 〇人	〇〇〇〇円
林産物売上	薪販売 〇〇m ³	〇〇〇〇円
イベント参加料	森林観察会参加費（保険料） 1人1回〇〇円	〇〇〇〇円

(3) 委託

活動計画における取組についての委託

- ・委託機関名
〇〇森林組合
- ・連絡先（電話番号等）
〇〇〇〇〇-〇-〇〇〇〇
- ・委託時期
30年8月
- ・委託内容（委託する区域の林小班、委託業務の内容（面積、作業の内容）等）
急峻な〇小班の刈払い、懸かり木の処理
- ・委託金額
500,000円

※ 活動を作業委託する場合は、活動組織としての活動（作業の監督や林内の見回り等）を活動計画の中で必ず明記すること。

委託作業は、専門技術が必要、危険などの理由で活動組織が自ら実施できないものに限り、活動の全てを外部に委託することはできません。